

設問1

小児がんにおける運動効果の可能性について、誤っているのはどれか、1つ選べ。

A1	QOLの向上
A2	免疫機能の低下
A3	筋力の向上
A4	心肺機能の向上
A5	精神健康度の改善

正解 A2

小児がんに対する定期的な運動および身体活動は、治療が最も積極的に行われている時期においても、安全かつ有益であり、がんに関連する副作用を減弱させるための有効な補助療法の一環であることが示されている。その中で、免疫機能は「改善」することが期待されている。

設問2

がん患者に対する全身状態の指標として、正しいのはどれか、1つ選べ。

A1	Eastern Cooperative Oncology Group - Performance status (ECOG - PS)
A2	Functional Assessment of Cancer Therapy - General (FACT - G)
A3	Numerical Rating Scale (NRS)
A4	エドモントン症状評価システム改訂版(日本語版) (ESAS - r - J)
A5	Geriatric 8 (G8)

正解 A1

がん患者の全身状態の指標は、Eastern Cooperative Oncology Group - Performance status ((ECOG - PS) が世界的に使用されている。FACT - Gは生活の質、NRSとESAS - r - Jは各症状、G8は高齢がん患者の機能障害のスクリーニングツールの指標である。

設問3

本邦におけるがん患者の治療と仕事の両立支援について、誤っているものはどれか、1つ選べ。

A1	がん関連疲労は、がん患者の復職を阻害する。
A2	がん治療の前段階に行う運動療法はがん患者にとって有益である。
A3	日本では、がん患者のおよそ3人に一人は就労世代にあたる。
A4	本人の健康に仕事を続けることは、関係しない。
A5	働きがいのある人間らしい仕事をつづけることをディーセントワークという。

正解 A4

仕事などの社会活動を通じて社会とよい関係をもつことも健康の定義に含まれるようになった。

設問4

Aさん(70歳、女性)は、進行結腸癌の術後に両側の多発肺転移が進行し、終末期で在宅療養中であつたが呼吸困難が増悪した。経皮的動脈血酸素飽和度(SpO₂)は95%であるが、安静時でも呼吸困難を訴え、浅い頻呼吸となっている。発熱はなく、咳嗽はあるが肺炎の併発はない。Aさんへの対応で、最も適切なのはどれか、1つ選べ。

A1	モルヒネ塩酸塩の投与を見送る。
A2	酸素投与は行わない
A3	起座位もしくはファウラー位をとる。
A4	安静を保つため訪問は最低限とする。
A5	呼吸リハビリテーションは行わない。

正解 A3

呼吸困難が増悪しているということから仰臥位よりは起座位のほうが呼吸がしやすくなる。起座位をとるのが困難であれば、ファウラー位などの上体を起こした姿勢をとることで呼吸がしやすくなる。

設問5

がんリハビリテーションの分類について、誤っているのはどれか、1つ選べ。

A1	予防的リハビリテーション
A2	回復的リハビリテーション
A3	維持的リハビリテーション
A4	緩和的リハビリテーション
A5	医学的リハビリテーション

正解 A5

がんリハビリテーションは、「予防的リハビリテーション」、「回復的リハビリテーション」、「維持的リハビリテーション」、「緩和的リハビリテーション」の4つに分類される(Dietz分類)。

設問6

がん悪液質について、正しいものはどれか、1つ選べ。

A1	全身性の炎症を伴う。
A2	骨格筋量は減少しない。
A3	食欲不振は伴わない。
A4	体重は減少しない。
A5	通常の栄養サポートで改善する。

正解 A1

がん悪液質の病態は全身性慢性炎症であり、C reactive protein(CRP)はその指標となるため、理学療法時に確認すべきである。